



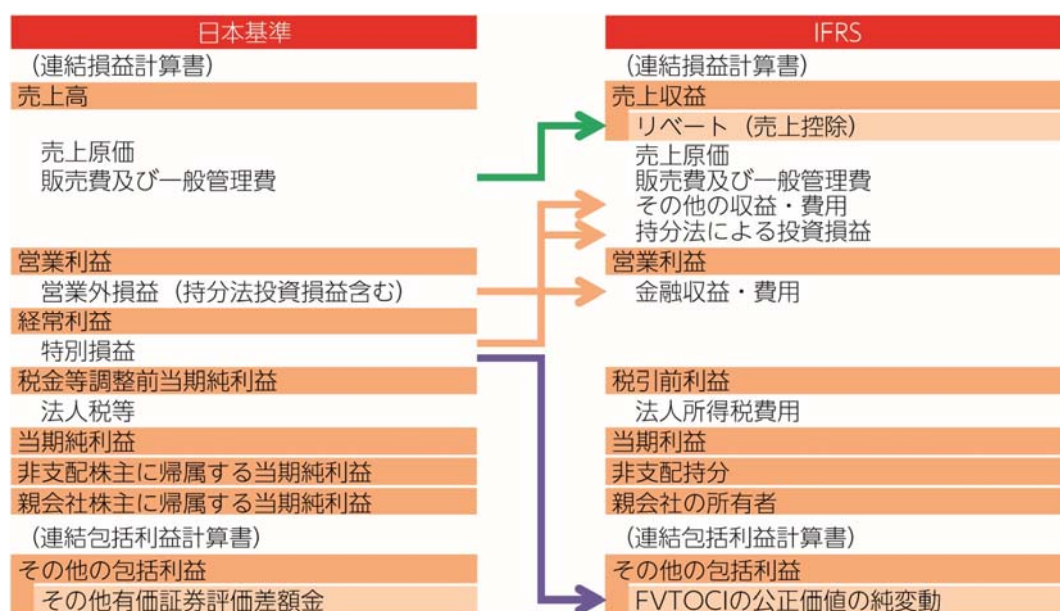
対処すべき課題

※ 本資料内の記載金額は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。
ただし百分率については、表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

『それでは、私から、当社グループが「対処すべき課題」について、ご説明いたします。』



IFRS導入について



『繰り返しになりますが、当社グループでは、当連結会計年度から、国際財務報告基準、IFRSに基づいてご報告申し上げます。

詳細につきましては、お手元の招集ご通知添付書類22ページをご覧ください。』



2019年度 計画・2018年度 実績 連結損益 (IFRS)

(単位：億円)

	2019年度		2018年度		2017年度
	計画	前期比	実績	前期比	実績
売上収益	4,650	+140	4,509	+100	4,409
営業利益	370	+80	289	▲62	351
親会社の所有者に帰属する 当期利益	260	+66	193	▲97	291
ROE	—	—	5.9%	▲3.3pt	9.2%
調整後EPS (円)	245	+20	225	▲38	263

※ 2017年度実績もIFRSで調整しております

『それでは、2019年度の計画及び2018年度の連結損益実績についてご説明いたします。』

『まず、2018年度の実績ですが、

売上収益は、前期比100億円増の4,509億円で着地しました。

一方で営業利益は、米国での固定資産及びブラジルにおける無形資産等の減損が合計95億円発生した関係もあり、前期比62億円減の289億円となっています。』

『親会社の所有者に帰属する当期利益につきましても、減損の影響を受け、前年比97億円減の193億円となりました。

この結果、営業利益率は6.4%になり、ROEは5.9%の着地となりました。』

『続けて、2019年度の計画についてご説明いたします。』

『2019年度の売上収益は前期比+140億円、3.1%増収の4,650億円を目指します。

利益面については、前期に発生した減損処理の影響からのV字回復を基本とし、

営業利益は、+80億円、27.7%増益の370億円を目指します。

親会社の所有者に帰属する当期利益は66億円増益の260億円となります。

また、営業利益率は前年から1.5ポイント改善して8.0%を目指します。』



株主還元施策

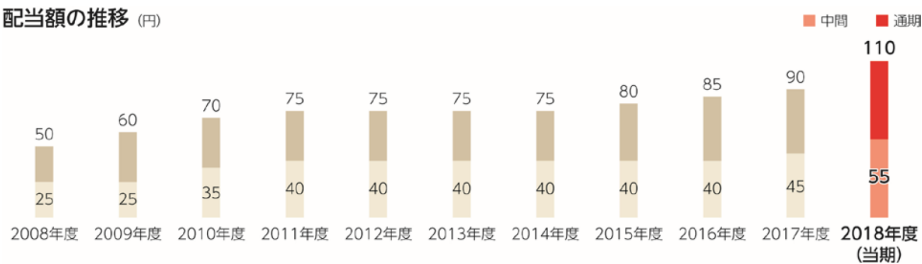
株式配当

- 業績の向上とともに増配を行い、中計期間 平均40%以上の配当性向を目指す

	5か年 計 画	2016年度 実 績	2017年度 実 績	2018年度 予 定	2019年度 計 画
配当金/株	安定配当	85円	90円	110円	110円
配当性向	平均40% 以上	38.4% ^{※1}	32.2% ^{※1}	59.2% ^{※2}	44.1% ^{※2}

※1 日本基準による計算値
※2 IFRSによる計算値

配当額の推移 (円)



『当社は、常にグループ収益力の強化に努め、企業価値の向上と株主の皆様に対する適切な利益還元を最重要経営課題と認識し、連結業績や今後の資金需要を勘案しながら、継続的かつ安定的な利益還元を行っていくことを基本方針としております。』

『2019年度の配当につきましては、前年と同額の年間110円の配当を予定しております。当社といたしましては、2016年度から2020年度までの中期経営計画の期間を平均し、40%以上の配当性向を目指しております。引き続き、株主還元の充実に努めてまいります。』



2018年度のポイント①

日清食品 主要3ブランドで売上(金額)過去最高を更新

発売 **60** 年

■ チキンラーメン



発売 **47** 年

■ カップヌードル



発売 **42** 年

■ どん兵衛



『次に、2018年度の事業における3つのポイントについてご説明申し上げます。』

『まず一つ目のポイントですが、国内も海外も、売上が順調に伸びたという点です。』

『国内で特筆すべきは、「チキンラーメン」「カップヌードル」「日清のどん兵衛」といった日清食品の主要ブランドが、いずれも過去最高の売上を記録したことです。

中でも、2018年に発売60周年を迎えた「チキンラーメン」ブランドが史上最高売上を達成したことは、大変喜ばしく思っています。

当社グループでは“100年経ってもなお、お客様から愛され、鮮度を維持し成長し続けるブランド群を育成する”という意味を込め、「100年ブランドカンパニー」になることを目指しています。』

『その意味でも、今回、発売から60年を経たロングセラーブランドにおいて史上最高売上を達成できたことは、その実現に向けて、大きな自信となりました』



2018年度のポイント②

日清食品 関西工場 操業開始



1 敷地面積は
甲子園球場

2.6 個分



2 食の安全性強化

自動化
無人化



3 生産能力は
年間最大

10 億食



4 不良品発生率は

$\frac{1}{100}$ 万食以下

『二つ目のポイントは、2018年10月に日清食品の関西工場が操業を開始したことです。』

『「関西工場」は、安全性と生産性の向上を追求した「次世代型スマートファクトリー」であり、4つの大きな特徴があります。左から順に紹介させていただきます。』

『第1の特徴は、工場の広さです。』

敷地面積は約10万㎡で、阪神甲子園球場2.6個分にあたります。
横幅300m、奥行150mの工場内には10本の生産ラインが設置され、
日清食品を代表するさまざまな製品をつくっています。』

『第2の特徴は、この関西工場では、食の安全性を強化するために、』

当社グループが独自開発した最新鋭設備を導入するほか、ロボット技術や、IoT技術を
随所に活用していることです。

これによって、これまで人の手で行っていた作業工程の自動化と効率化を図り、
製品の安全性とコスト競争力の向上を実現しています』

『さらに、その生産能力は最大で、年間10億食を生産することができます。全長200mの生産ラインでは1分間に400食ものスピードで生産されており、小麦粉を入れてから約40分で「カップヌードル」が完成します。これによって、工場全体では1日最大400万食、年間最大10億食を生産できる、国内最大級の工場となりました。』

『これらの特徴に加えて、「関西工場」では世界最高水準の品質管理システムを構築しています。工場内に700台の品質管理カメラを設置し、「NASA室」と呼ばれる自動監視管理室では工場内すべての情報を画面上で一元管理しています。不良品発生率は100万食に対して1食以下と、宇宙ロケット打ち上げの安全基準より、さらに高い安全性を誇ります。』

『国内では労働力の確保が大きな課題となっている中、「関西工場」はロボット技術やAIの活用により大幅な省人化を実現しました。また、IoTをはじめとする最新技術を取り込むことで、熟練の生産技術者たちが持つ知見やノウハウをデジタル化し、その再現性を高めていきます。さらに、IoTデータを外部の取引先や他の工場とリンクさせることで、“自ら改善できる工場”となっていくでしょう。』

『「関西工場」の稼働は、当社グループ全体のデジタル変革に向けた、大きな一歩だと考えています。』



2018年度のポイント③



第9回 世界ラーメンサミット (開催地 大阪)

2018年8月22日(水)～23日(木)



即席めん開発7原則

- ① 美味しい
- ② 安全・安心
- ③ 簡便
- ④ 長期保存
- ⑤ 安価
- ⑥ 栄養
- ⑦ 環境保全

『そして2018年度の三つ目のポイントは、即席めんの開発原則の進化です。』

『昨年2018年8月、世界の主要ラーメンメーカーで構成する世界ラーメン協会は、即席めん発明60周年を記念して「世界ラーメンサミット」を大阪で開催しました。このサミットにおいて、①おいしい、②安全・安心、③簡便、④長期保存、⑤安価という従来の即席めん開発の5原則に、⑥栄養と、⑦環境保全を加えることを宣言しました。』

『昨今、世界の消費者の方々は食品選択の基準として、栄養バランスをより重視しています。また、地球温暖化など負の側面にこれまで以上に厳しい目を向けるようになっていきます。即席めんが人々の健康と地球環境に配慮した製品であることを世界中の消費者の方々に広く理解していただくことは、我々メーカーの責務であるといっても過言ではありません。』

『当社グループも革新的な新製品の開発、新技術の創出でこの宣言に応えていきます』



中期計画2020 目標の修正

- 主に海外事業の実情に合わせた修正とM&Aの予算外化

修正中期経営計画KPI(IFRS)

		【修正前】	【修正後】
本業で 稼ぐ力	売上収益	5,500 億円	4,800 億円
	営業利益	475 億円	425 億円
資本市場 価値	純利益	330 億円	300 億円
	ROE	8 %	8 %
	調整後EPS	330 円	284 円
	時価総額	1 兆円	

[次ページ](#)

『続きまして、その中期経営計画2020の見直しについて説明させていただきます。』

『中期経営計画2020で掲げた目標を修正する理由につきましては、海外事業の実情に合わせた計画の修正と、不確定要素の多いM&Aを計画から外すことによるものです。』

『これにより、営業利益が475億円から425億円、純利益が330億円から300億円になっております。』

『営業利益の425億円と純利益の300億円は、最低でも2020年度に達成したいと考えております。また、売上につきましては5,500億から4,800億に修正いたしました。』

『ROEは8%を維持し、調整後のEPS は284円を目指します。』

『今回、一部の計画を見直すことにしましたが、国内収益基盤のさらなる盤石化と、「カップヌードル」のグローバルブランディングを中心として海外事業を拡大し、グローバルカンパニーとしての評価獲得を目指すという「中期経営計画2020」の方向性に変わりはありません。』

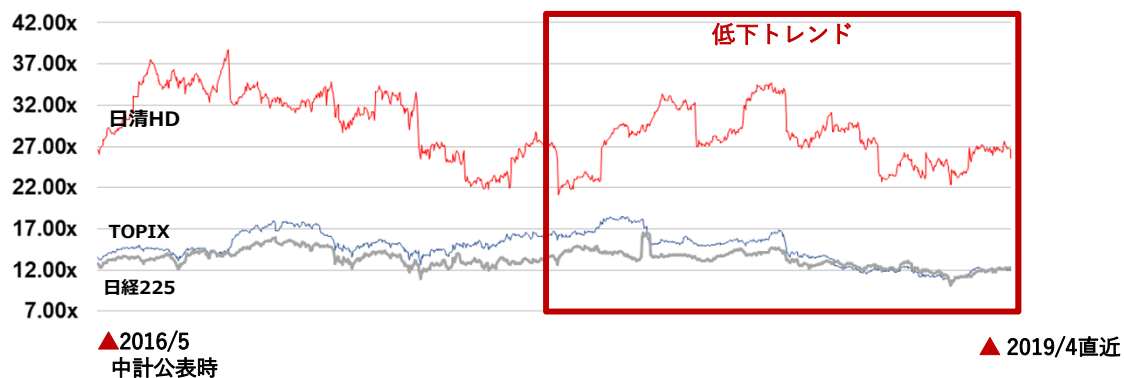


時価総額 1 兆円に関して

- 時価総額1兆円は、時期に拘らず通過目標として着実に目指していく

株式市場トレンド：PER推移

2018年以降日本株全体として低下傾向 ⇒ 当時想定したPER \geq 30が見込みづらい状況に



『時価総額1兆円構想につきましては、PERが35倍つけば達成できますが、これは大分高い水準だと思っております。これについては継続的な目標として、時期にこだわらず、通過目標として着実に目指してまいります。』



5つの戦略テーマ



『これらの目標を達成すると共に、グローバルカンパニーの評価獲得に向けて、2016年から5つの戦略テーマを遂行しております。』

『それでは、5つの戦略テーマの現在の状況と、今後の戦略についてご説明申し上げます。』



戦略テーマの振り返り

戦略テーマ	当初 20年度ターゲット	18年度実績	20年度見通し
1 カップヌードル Global Brandingの促進	2015年度比 1.5倍 (食数)	1.2倍	1.3倍 (食数)
2 重点地域への集中 (BRICs)	海外内営業利益構成比 70%	—	70%
3 国内収益基盤の 盤石化	日清食品+明星食品 291億円 営業利益目標	257億円	295億円
4 第2の収益の柱の構築 (菓子・シリアル・低温)	オーガニック成長に加え 積極的にM&Aを活用	M & A案件を予算外化 引き続き良案件の検討を進める	
5 グローバル経営人材の 育成・強化	経営人材プール数 2倍 (200人)	1.8倍	2倍 (200人)

『まず、一つ目の、「カップヌードルのグローバル化」の展開につきまして、2015年度比食数ベースで1.5倍という計画を掲げておりましたが、2018年度で1.2倍、2020年度時点で1.3倍程度の見込みとなりそうです。』

『数量を追い求めることも重要ですが、2015年度時点に比べると、戦略も一部変わってまいりまして、「カップヌードル」を高価格タイプのものにシフトしている状況です。』

『代表的なのは米国日清で、それ以外の国、例えば中国やインドなども高価格タイプの「カップヌードル」が、広がってきました。』

『次に、二つ目の、「重点地域への集中」につきましては、海外の営業利益の内、70%をBRICsで占める目標ですが、2020年度の124億円の営業利益目標の70%をBRICsで占めるということになります。』

『三つ目の「国内収益基盤の盤石化」につきましては、
営業利益のターゲットは291億円でしたが、
2020年度の見通しとしては295億円に目標を上げていきたいと思っております。』

『関西工場の稼働、価格改定を実施して
収益を安定させていくことが基本的な方針になると思っております。』

『また、主要ブランドの強化による価値の向上も
引き続き基本の路線となります。
償却費が上がってくることもありますが、
日清食品と明星食品で295億円を達成していく計画です。』

『4つ目の「第2の収益の柱の構築」につきまして、
当初織り込んでいたM&Aは不確実性がありますので計画より外しております。』

『菓子事業は堅実に成長しておりますし、
シリアル事業のマーケットでの存在価値も拡大しております。
グラノーラが少々落ち込み、コーンフレークが伸びている状況です。』

『冷凍事業は個食ニーズの高まりを受け拡大しております。
静岡工場にライン増設を予定しており、冷凍事業の拡大は
大いに進めていこうと考えております。』

『それから日清ヨークでは乳酸菌飲料の成長性も期待でき、
機能性飲料も拡大していきたいと考えております。』

『5つ目の「グローバル経営人材の育成・強化」につきましては、
200名を目標として設定しております、大体180名が育ってきております。
2020年には200人を超す人材が必要であると感じております。』



企業価値向上に向けた取り組み（1）

- ESGを意識したCSV経営を推進し、企業としての付加価値向上を目指す。

国際的な評価

世界的なESG投資の株価指数「Dow Jones Sustainability Indices」の「Asia/Pacific Index」構成銘柄に選定される



女性活躍に対する評価

経済産業省と東京証券取引所が共同で実施する「なでしこ銘柄」において、「準なでしこ」に選定される



健康経営に対する評価

日清食品ホールディングス、日清食品、日清食品チルド、日清食品冷凍の4社が経済産業省と日本健康会議から「健康経営優良法人2019（ホワイト500）」の認定を受ける



『また当社は、CSV視点の取組みにフォーカスし、企業価値向上を目指してまいります。まず、国際的な評価を得た実績として、昨年、当社は世界的なESG評価機関である、「Dow Jones Sustainability Indices」のアジアパシフィック銘柄に組み入れられました。食品カテゴリーにおいて、当該銘柄に組み入れられている日本企業は、当社を含め3社です。』

『また、「準なでしこ」や、「健康優良法人2019 ホワイト500」にも認定されるなど、女性人材が活躍できる環境づくりや、健康経営に対する取り組みについて評価頂いている状況でございます。』



企業価値向上に向けた取り組み（2）

環境に配慮した経営

■ ECOカップの採用

11年前から環境配慮型の容器を採用

ECOカップ（紙容器）を2008年より採用。

CO2排出量とプラスチック使用量の削減に寄与。

2019年度より“バイオマスECOカップ”に変更



■ RSPO認証パーム油の使用

インスタントラーメン業界で国内初！

日清食品 関西工場で持続可能な「認証パーム油※」の使用を開始。
(2019年3月～)

※認証パーム油は森林破壊防止や生物多様性保全、人権に配慮されて生産、加工されたパーム油。



『当社は環境に配慮した経営を進めており、2008年には「カップヌードル」の容器を、再生可能資源である紙を使用した「ECOカップ」に変更しました。
さらに2019年12月からは、石化由来のプラスチックを植物由来のバイオマスプラスチックに一部置き換えた「バイオマスECOカップ」へ変更を開始し、2021年度中には全量の切り替えを完了する予定です。
こうした取り組みにより、プラスチック使用量と焼却時のCO2排出量のさらなる削減を図って参ります。』

『そのほかにも、米国や欧州に続きまして、昨年稼働した関西工場でも、2019年3月からRSPO認証パーム油の使用を開始しております。
これは国内即席めん業界では初の取り組みです。』



企業価値向上に向けた取り組み（3）

新たな食への取り組み

- 完全栄養食のローンチ 「All-in PASTA」
 - ✓ 1日に必要な栄養素を簡単に摂取できる新しい“簡便栄養食”
 - ✓ 新開発の「栄養ホールドプレス製法」（特許出願中）で製造
- 肉本来の食感を持つ「培養ステーキ肉」実用化の一步
 - ✓ 世界初のサイコロステーキ状のウシ筋組織の作製に成功



『また、新たな食の取り組みとしまして、完全栄養食の「All-in Pasta」の発売や「培養ステーキ肉」の研究を進めております。』

『「All-in Pasta」は、新開発した日清食品独自の製めん技術「栄養ホールドプレス製法」で、茹でると失われやすいビタミンやミネラルをパスタの中心に閉じ込めることに成功しました。』

『カロリーは足りているのに、ビタミン・ミネラルなどの栄養不足が深刻化している現代では、1日に必要な栄養素を簡単に摂取できる「完全栄養食」のニーズが高まっています。この「All-in PASTA」は、1日に必要なすべての栄養の1/3を簡単に摂取でき、おいしさも実現した製品です。』

『培養肉とは、動物の個体からではなく、細胞を体外で組織培養することによって得られた肉のことで、家畜を肥育するのと比べて地球環境への負荷が低いことや、畜産のように広い土地を必要とせず、厳密な衛生管理が可能等の利点があるため、従来の食肉に替わるものとして期待されています。』

『近年、世界中で培養肉の研究が行われていますが、そのほとんどが、ミンチ肉を作製する研究です。当社と東京大学生産技術研究所との研究グループは、肉本来の食感を持つステーキ肉を培養肉で実現する目標に向け、筋組織の立体構造を人工的に作製する研究に取り組み、世界で初めてサイコロステーキ状の大型立体筋組織の作製に成功しました。』

『これからの地球環境問題を含めて、この辺りをCSVテーマとして進めていきたいと考えております。』

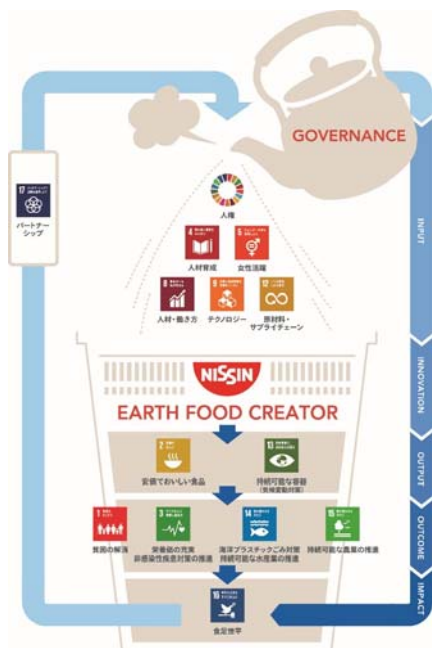


『最後に、当社グループが持続的に成長するための、SDGsへの取り組みについてご紹介いたします。』

『SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために設定された国際的な目標です。スクリーンに投影されております、17のゴールから構成されており、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。』



持続的成長のために



当社グループが社会に与える影響の例

貧困の解消

WINAやWFP等を通じた食糧支援や売り上げの一部を寄付に回すことで、安全な食へのアクセス平等や被災地での貧困の削減に貢献

非感染性疾患対策の推進

糖質オフや減塩、シニア向け製品等の社会ニーズに合わせた商品の提供により、消費者の生活の質を向上させるとともに、非感染性疾患対策に貢献

栄養価の充実

完全栄養食「All-inシリーズ」、動物性たんぱく質の代替（大豆ミート）や乳酸菌、栄養補助食品などの提供により、消費者の栄養価の充実に貢献

海洋プラスチックごみ対策

海洋プラスチックごみ問題に取り組むCLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）に幹事企業として加盟し、官民や企業間の連携を図りつつ、環境配慮型包材の開発を推進

持続可能な農業の推進

森林破壊防止や生物多様性保全、人権に配慮されて生産、加工されたパーム油等の使用により、調達先の持続可能な農業に貢献

『当社グループが持続的に成長していくためには、社会の持続的な発展に向けて、事業を通じて社会に貢献することが必要不可欠です。当社グループとしては、人類を「食」の楽しみや喜びで満たすことを通じて社会や地球に貢献する、「EARTH FOOD CREATOR」という理念のもと、様々な取り組みを行っております。』



『結果として、当社の事業はこの中の13項目に該当しております。
 かなりの部分を当社は満たしていると感じています。
 これは事業構造、商品構造そのものが社会的価値を持っているからだと思えます。』

『当社グループは、事業活動を通じて、引き続き、企業価値の向上に努めてまいります。』

『以上が当社グループの、今後の「対処すべき課題」の概要でございます。』

EARTH FOOD CREATOR



『株主の皆様には、より一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。』

『なお、「連結計算書類」に係る「会計監査人」及び「監査役会」の監査報告は、先ほどの澤井監査役 及び私からの報告のとおりですので、その旨、あらためてご報告いたします。』

『以上をもちまして、「報告事項1及び2」についてのご説明を、終わらせていただきます。』